

医療機器メーカー「東海メディカルプロダクツ」(愛知県春日井市)の筒井宣政会長(セミ)が、名古屋大に建設される国際人材育成施設に茶室を寄贈する。その名は「白蓮庵」。若くして心臓の難病で他界した次女・佳美さんの戒名から取った。筒井会長は「佳美もたしなんだ茶道を通じて、海外からの留学生が日本の素晴らしさに触れてくれれば」と期待を込める。

(社会部・今村太郎)

## 和の心娘の分まで

一九六八年に生まれた佳美さんは、先天的な心臓の難病があり、九歳で専門医から「手術は不可能」と告げられた。筒井さんは佳美さんを救おうと人工心臓の開発を決意し、八一年に東海メディカルを設立。動物実験

など実用化への壁が厚く製品化はできなかったものの、八九年には心筋梗塞の応急措置に使われる「バルーンカテーテル」の国産品を初めて開発した。会社主力商品となり、佳美さんも「これで救える命があるね」と喜んだ。

生前、佳美さんは名古屋市東区の自宅近くで茶道を習っていた。病のため屋外での運動ができないうち、中学生の時に「何か趣味を」と、友人と始めた。一年に佳美さんが二十三歳で死



生前の筒井佳美さん(左)と名古屋大に茶室整備費用を寄付した東海メディカルプロダクツの筒井宣政会長(右)と妻の陽子さん=16日、名古屋市千種区で



### 「東海メディカル」会長 名大に茶室を寄贈

去した後、筒井さんは「娘の打ち込んだ茶道を自分も」と習い始めた。いまでは自宅の茶室に客を招き、もてなす。

筒井さんが寄贈する茶室は、名大東山キャンパス(名古屋千種区)に二〇一五年度中に完成する「融合・連携型国際人材育成拠点施設(新CALE棟)」一階に整備される。設計当初、名大が文部科学省に打診したものの予算が付かなかった。筒井さんが名大で客員教授として教壇に立つ縁で協力を打診され、快諾した。広間と四畳半の小間、茶器を洗う水屋などがある本格的な間取りで、留学生が日本文化に触れる場となる。

茶室の名は、花のように愛らしかつたから、と付けられた「白蓮院」で始まる佳美さんの戒名にちなむ。十六日には、整備費約二千五百万円の目録を妻の陽子さん(左)とともに、浜口道成・名大学長に手渡した。筒井さんは「娘も天国で喜んでい